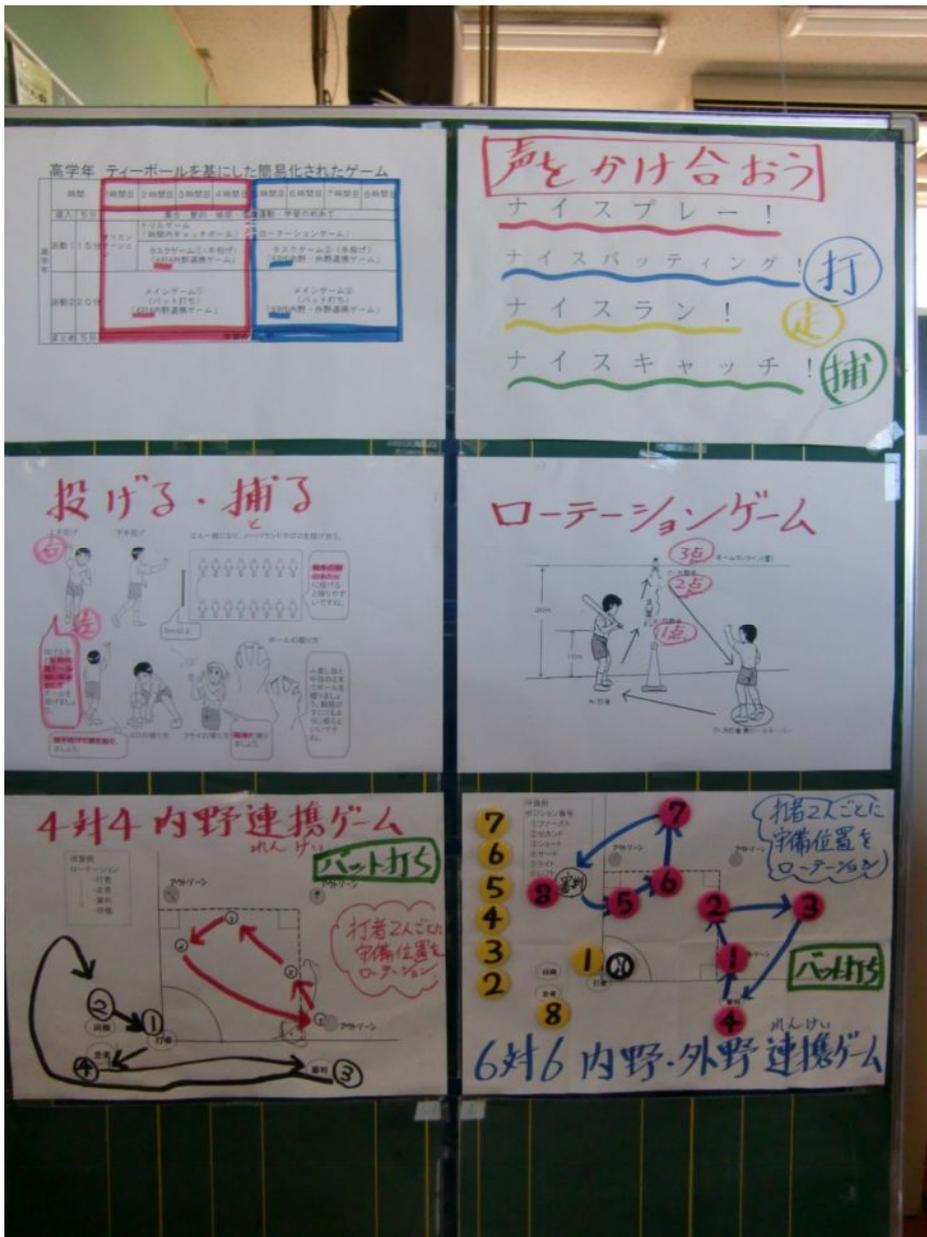


# 掲示物01



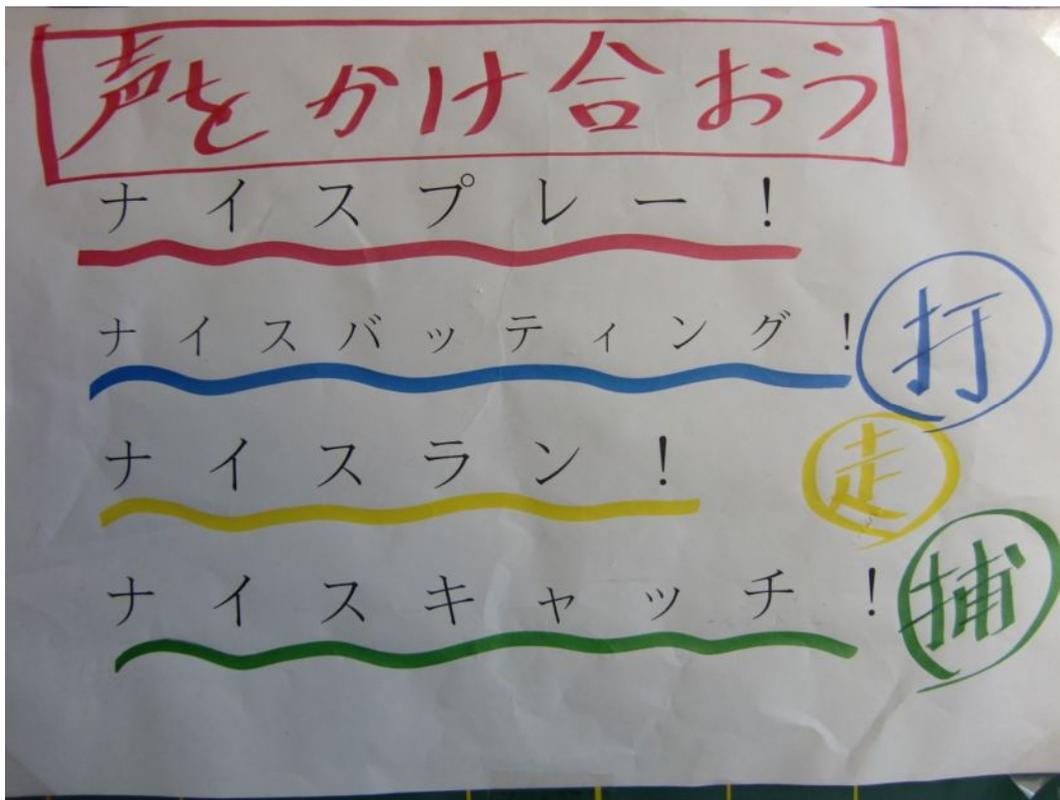
- ・単元計画や学習の流れを明確にしながら授業を進めることにより、児童は先を見通して意欲的に動くことができる。
- ・この掲示板は、毎時間、授業の導入で使用した。
- ・番号を書いたマグネットを利用すると、動きの説明がわかりやすくなる。(この資料を用いた授業を実践した後に、一部手直しがあります。)
- (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

## 掲示物02

		高学年 ティーボールを基にした簡易化されたゲーム								
時間		1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目	
導入	5分	集合・整列・挨拶・準備運動・学習のめあて								
高学年	活動1	オリエンテーション	ドリルゲーム 「時間内キャッチボール」		ローテーションゲーム					
	5分		タスクゲーム①(手投げ) 「4対4内野連携ゲーム」		タスクゲーム②(手投げ) 「6対6内野・外野連携ゲーム」					
	活動2	メインゲーム① (バット打ち) 「4対4内野連携ゲーム」				メインゲーム② (バット打ち) 「6対6内野・外野連携ゲーム」				
	20分									
まとめ	5分	学習のまとめ								

(この資料を用いた授業を実践した後に、一部手直しがあります。)  
 (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合  
 4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟  
 チームに分けた。)

## 掲示物03

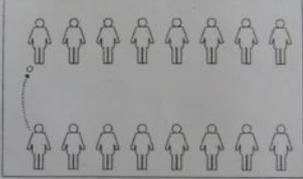


- ・お互いによいプレーをたたえ合い、意欲的に取り組めるようにする。
- ・どのようなプレーが、「ナイス～！」なのかを押さえておかないと、なかなか声かけができない。

# 掲示物04

## 投げる・捕ると

上手投げ      下手投げ      2人一組になり、ノーバウンドやゴロを投げ合う。



相手の胸のあたりに投げると捕りやすいですね。

5m以上

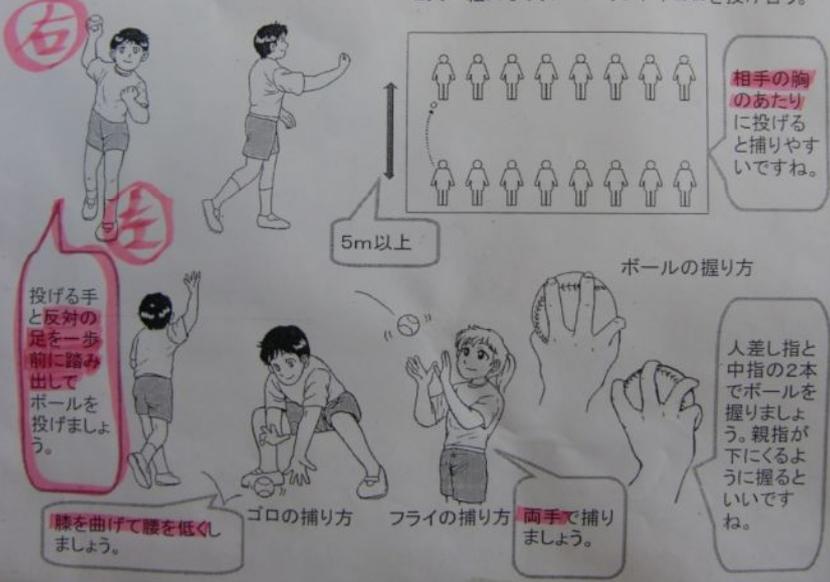
ボールの握り方

投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げましょう。

人差し指と中指の2本でボールを握りましょう。親指が下にくるように握るといいですね。

膝を曲げて腰を低くしましょう。

ゴロの捕り方      フライの捕り方      両手で捕りましょう。



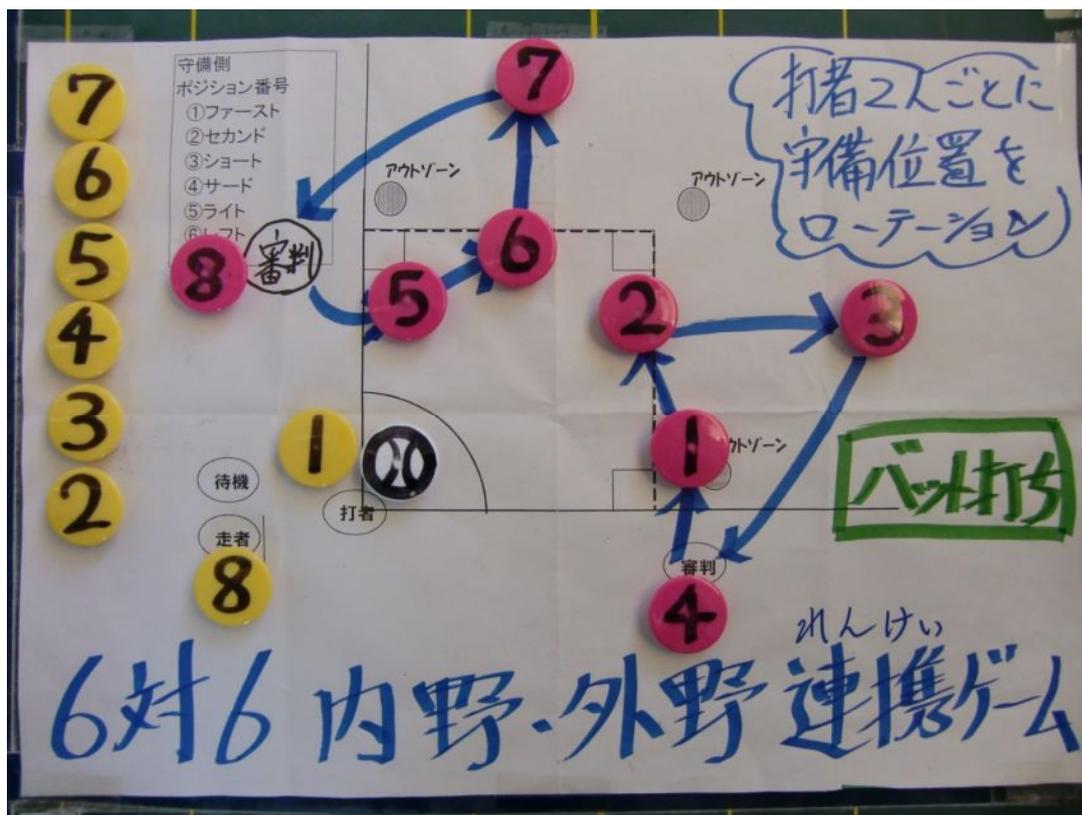
# 掲示物05



# 掲示物06



# 掲示物07



- ・6人のチームどうして行う教材を、8人のチームどうして行った場合である。
- ・番号を書いたマグネットを利用すると、動きの説明がわかりやすくなる。  
(この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

# 掲示物08

56ティーボール教材09

## 4対4内野連携ゲーム(手投げ)

ねらい	内野の動きを理解し、内野の連携プレーをする技能を身に付ける。
時間	10分間
準備	パッチングティー、ティーボール、バット、塁ベース、フラフープ

①が捕球した場合

②が捕球した場合

③が捕球した場合

④が捕球した場合

**攻撃側**  
ローテーション  
・打者  
・走者  
・審判  
・待機

**球中の表記**  
● ボール  
○ 守備手  
→ 人の動き  
---> ボールの動き

**やり方**

- ① 攻撃側は、打者→走者→審判→待機の順でローテーションする。
- ② 打者は、ゲーム中にボールが飛ぶコースを考えて、意図した場所に手でボールを投げる。(4人が1回ずつ投げたら攻守交代し、1イニングを行う。)
- ③ 走者は1塁、2塁、3塁の順で走る。(3塁まで/打者走者分離/残塁なし)
- ④ 守備者はボールを捕ったら、走者より先のアウトゾーンにボールを送球することで進塁を阻止する。
- ⑤ 進塁できた塁までを得点とする。(最初は得点を競わず、内野の連携プレーの確認を重視し、慣れてきたら、得点を競い合ってもよい。)

**【発展】**  
・「手投げ」を「バット打ち」に変えて同様に行う。そのときには、思いきり打つことよりも、狙ったところに打って連携プレーの練習ができるようにする。

・番号を書いたマグネットを利用すると、動きの説明がわかりやすくなる。  
 (この資料を用いた授業を実践した後に、一部手直しがあります。)  
 (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

# 掲示物09



- ・番号を書いたマグネットを利用すると、動きの説明がわかりやすくなる。
- (この資料を用いた授業を实践した後に、一部手直しがあります。)
- (この授業を实践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

# 掲示物10

**6対6内野・外野連携ゲーム(手投げ)**

ねらい	内野と外野の動きを理解し、内野と外野の連携プレーをする技能を身に付ける。
時間	15分間
準備	バッティングティー、ティーボール、バット、塁ベース、フラフープ

⑥が捕球した場合

図中の記号

● ボール

○ 守備者

→ 人の動き

.....→ ボールの動き

守備側  
ポジション番号

①ファースト  
②セカンド  
③ショート  
④サード  
⑤ライト  
⑥レフト

⑤と⑥の間で捕球した場合

⑤が捕球した場合

やり方

- ① 攻撃側は、打者→走者→審判→待機→待機→待機の順でローテーションする。
- ② 打者は、ゲーム中にボールが飛ぶコースを考えて、意図した場所に手でボールを投げる。(6人が1回ずつ投げたら攻守交代し、1イニングを行う。)
- ③ 走者は1塁、2塁、3塁の順で走る。(3塁まで／打者走者分離／残塁なし)
- ④ 守備者はボールを捕ったら、走者より先のアウトゾーンにボールを送球することで進塁を阻止する。
- ⑤ 進塁できた塁までを得点とする。(最初は得点を競わず、内野や外野の連携プレーの確認を重視し、慣れてきたら、得点を競い合ってもよい。)

【発展】

- ・「手投げ」を「バット打ち」に変えて同様に行う。そのときには、思いきり打つことよりも、狙ったところに打って連携プレーの練習ができるようにする。

- ・6人のチームどうして行う教材を、8人のチームどうして行った場合である。
- ・番号を書いたマグネットを利用すると、動きの説明がわかりやすくなる。(この資料を用いた授業を実践した後に、一部手直しがあります。)
- (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

# 掲示物11



- ・6人のチームどうして行う教材を、8人のチームどうして行った場合である。
- ・番号を書いたマグネットを利用すると、動きの説明がわかりやすくなる。  
(この資料を用いた授業を実践した後に、一部手直しがあります。)
- (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

## リーグ戦1

	Jr.	Jr.	Jr.	Jr.
赤フィン ⑩	△ 13-13	○ 15-11	○ 21-19	○ 19-11
イエロー スター⑧	△ 11-11	○ 19-9	○ 21-10	△ 12-12
マリン ブル③	X 9-15	○ 16-15	X 13-19	X 16-17
グリーン ラベル④	△ 17-17	X 12-18	○ 17-16	X 12-19

- ・4対4内野連係ゲームの試合結果である。(兄チーム用)
  - ・自分のチームの色と違うチームの兄弟チームと試合を行った。
  - ・毎時間の試合結果をまとめてリーグ戦形式にすると、意欲的に取り組める。
- (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

## リーグ戦2

	赤ワイン	イエロー スターズ	マウン ブルー	グリーン ラベル
Jr.⑥	△ 13-13	△ 11-11	○ 15-9	△ 17-17
Jr.③	× 11-15	× 9-19	× 15-16	○ 18-12
Jr.③	× 19-21	× 10-21	○ 19-13	× 16-17
Jr.⑦	× 11-19	△ 12-12	○ 17-16	○ 19-12

- ・4対4内野連係ゲームの試合結果である。(弟チーム用)
  - ・自分のチームの色と違うチームの兄弟チームと試合を行った。
  - ・毎時間の試合結果をまとめてリーグ戦形式にすると、意欲的に取り組める。
- (この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

## リーグ・トーナメント戦

	赤	黄	青	緑
⑥ 赤		○ 13-9	○ 14-8	× 10-12
③ 黄	× 9-13		○ 10-9	× 15-16
③ 青	× 8-14	× 9-10		○ 11-10
⑥ 緑	○ 12-10	○ 16-15	× 10-11	

優勝決定戦		3位決定戦
10	11	18
赤 ワイシ	グ ラ バ ル	イ ス タ ー ズ
		マ ジ ック

- ・6対6内野・外野関係ゲームの試合結果である。
- ・毎時間の試合結果をまとめてリーグ戦形式にすると、意欲的に取り組める。
- ・リーグ戦の後、勝ち点6どうし、勝ち点3どうしで、各決定戦を行った。  
(この授業を実践したクラスは、男女各16人、計32人。男女混合4チーム、各8人。さらに各チームを男女混合4人ずつの兄弟チームに分けた。)

## 試合結果

試合日時	対戦相手	スコア	○	△	●	○	対戦相手
事前授業(6対6) 10月23日(火)	赤ワイン	31	○	—	●	22	イエロースターズ
	マリンブルー	23	●	—	○	27	グリーンラベル
1時間目(4対4) 10月30日(火)	赤ワイン	13	△	—	△	13	赤ワインJr.
	イエロースターズ	19	○	—	●	9	イエロースターズJr.
	マリンブルー	13	●	—	○	19	マリンブルーJr.
	グリーンラベル	12	●	—	○	19	グリーンラベルJr.
2時間目(4対4) 11月1日(木)	赤ワイン	19	○	—	●	11	グリーンラベルJr.
	イエロースターズ	11	△	—	△	11	赤ワインJr.
	マリンブルー	16	○	—	●	15	イエロースターズJr.
	グリーンラベル	17	○	—	●	16	マリンブルーJr.
3時間目(4対4) 11月8日(木)	赤ワイン	21	○	—	●	19	マリンブルーJr.
	イエロースターズ	12	△	—	△	12	グリーンラベルJr.
	マリンブルー	9	●	—	○	15	赤ワインJr.
	グリーンラベル	12	●	—	○	18	イエロースターズJr.
4時間目(4対4) 11月9日(金)	赤ワイン	15	○	—	●	11	イエロースターズJr.
	イエロースターズ	21	○	—	●	10	マリンブルーJr.
	マリンブルー	16	●	—	○	17	グリーンラベルJr.
	グリーンラベル	17	△	—	△	17	赤ワインJr.
5時間目(6対6) 11月13日(火)	赤ワイン	13	○	—	●	9	イエロースターズ
	マリンブルー	11	○	—	●	10	グリーンラベル
6時間目(6対6) 11月15日(木)	赤ワイン	14	○	—	●	8	マリンブルー
	イエロースターズ	15	●	—	○	16	グリーンラベル
7時間目(6対6) 11月19日(月)	赤ワイン	10	●	—	○	12	グリーンラベル
	イエロースターズ	10	○	—	●	9	マリンブルー
8時間目(6対6) 11月29日(木)	赤ワイン	10	●	—	○	11	グリーンラベル
	イエロースターズ	18	○	—	●	7	マリンブルー
事後授業(6対6) 11月30日(金)	赤ワイン	20	△	—	△	20	イエロースターズ
	マリンブルー	27	●	—	○	30	グリーンラベル

- ・今回の授業実践で行った全試合である。
- ・全8時間計画であるが、本授業プログラムの検証にあたり、前後に1時間ずつ6対6内野・外野関係ゲームを行い、児童の変容を調査した。
- ・11月後半になると(特に午後)、風が強くなり、バッティングティーからボールが落ちてしまうので、ガムテープなどで風対策をしたり、実施時期を考えて年間指導計画を立てたりする必要がある。

## トスの方法



- ・バッティングティーにのせたボールを打つ技能が高まってきたら、味方の児童によってトスされたボールを打ってもよい。
- ・打者が打ちやすいように、直線的ではなく、ふわっというイメージでトスする。
- ・トスは、1塁側のライン際で、2～3m離れた所から行うようにする。  
(右打ち)
- ・打者が打ったボールや振ったバットに当たらないように、安全な角度と距離を保ってトスする。(常に安全な場所から行えるように、ケンステップなどの段差がない目印をおいて、分かりやすくしておく必要がある。)
- ・トスされたボールを打つことを全員に強制せず、個人の能力に応じて対応していく必要がある。